



オーディオアシスタント

ユーザーマニュアル

法的情報

本書について

- 本書には、本製品の使用および管理に関する説明が含まれています。以下に記載されている写真、図表、画像、およびその他すべての情報は、説明および解説のみを目的としています。
- 本書に記載されている情報は、ファームウェアのアップデートやその他の理由により、予告なく変更される場合があります。本書の最新版は、Hikvision のウェブサイト (<https://www.hikvision.com>) でご確認ください。別段の合意がない限り、Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd. またはその関連会社（以下「Hikvision」といいます）は、明示的または黙示的を問わず、いかなる保証も行いません。
- 本ドキュメントのご利用にあたっては、本製品のサポートに関する訓練を受けた専門家の指導および支援を受けてください。

本製品について

本製品のアフターサービスサポートは、購入された国または地域でのみご利用いただけます。

知的財産権に関する承認

- Hikvision は、本書に記載された製品に組み込まれた技術に関連する著作権および/または特許を所有しており、これには第三者から取得したライセンスが含まれる場合があります。
- 本文書に含まれるテキスト、画像、グラフィックなどを含むすべての部分は、Hikvisionに帰属します。書面による許可なく、いかなる手段によっても、本文書の全部または一部を抜粋、複製、翻訳、または改変することはできません。
- **HIKVISION** およびその他のHikvisionの商標およびロゴは、各管轄区域においてHikvisionの所有物です。
- その他、記載されている商標およびロゴは、それぞれの所有者に帰属します。

法的免責事項

- 適用される法律で許容される最大限の範囲において、本書および本書に記載されている製品（そのハードウェア、ソフトウェア、ファームウェアを含む）は、「現状有姿」かつ「すべての欠陥およびエラーを含む」状態で提供されます。HIKVISION は、商品性、満足のいく品質、または特定の目的への適合性を含むがこれらに限定されない、明示的または黙示的な保証を一切行いません。本製品の使用は、お客様ご自身の責任において行われるものとします。いかなる場合においても、HIKVISIONは、事業利益の損失、事業の中断、データの損失、システムの破損、または文書の紛失を含むいかなる特別損害、結果的損害、付随的損害、または間接損害についても、契約違反、不法行為（過失を含む）、製造物責任、またはその他の理由に基づくか否かを問わず、本製品の使用に関連して、たとえ HIKVISIONがそのような損害または損失の可能性について通知を受けていた場合であっても、一切の責任を負いません。
- お客様は、インターネットの性質上、固有のセキュリティリスクが存在することを了承するものとします。また、HIKVISIONは、サイバー攻撃、ハッカー攻撃、ウイルス感染、またはその他のインターネットセキュリティリスクに起因する異常動作、プライバシー漏洩、その他の損害について一切の責任を負わないものとします。ただし、必要に応じて、HIKVISIONは適時に技術サポートを提供します。
- お客様は、本製品をすべての適用法令に従って使用することに同意し、その使用が適用法令に準拠していることを確保する責任はお客様のみにあるものとします。特に、お客様は、パブリシティ権、知的財産権、データ保護およびその他のプライバシー権を含むがこれらに限定されない、第三者の権利を侵害しない方法で本製品を使用する責任を負います。お客様は、大量破壊兵器の開発または製造、化学兵器または生物兵器の開発または製造、

化学兵器または生物兵器の開発または製造、核爆発物または安全でない核燃料サイクルに関連するいかなる活動、あるいは人権侵害を支援する活動を含みますが、これらに限定されません。

- 本資料と適用される法律との間に矛盾がある場合は、後者が優先されます。

© Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd. All rights reserved.

記号の規定

本書に記載されている記号の定義は以下の通りです。

記号	説明
 危険	回避しなければ、死亡または重傷につながる、あるいはその恐れがある危険な状況を示しています。
 注意	回避しなければ、機器の損傷、データの損失、パフォーマンスの低下、または予期せぬ結果につながる可能性のある危険な状況を示しています。
 注	本文の重要な点を強調または補足するための追加情報を提供します。

目次

第1章 概要	1
1.1 はじめに	1
1.2 クライアントのダウンロード先	1
1.3 システム要件	1
1.4 操作手順	1
第2章 プロジェクト管理	2
第3章 デバイス管理	3
3.1 デバイスの追加	3
3.1.1 オンラインデバイスの検索と追加	3
3.1.2 IPアドレスでデバイスを追加	3
3.1.3 IPセグメントによるデバイスの追加	4
3.1.4 デバイスの一括インポート	5
3.2 一般的な操作	6
3.2.1 デバイスの有効化	6
3.2.2 ネットワークパラメータの編集	7
3.2.3 デバイスの一括アップグレード	7
3.2.4 その他の機能	8
第4章 マイルーム	10
4.1 部屋の管理	10
4.2 デバイスのルーティング	10
4.2.1 その他の機能	12
4.3 カバレッジエリアのマッピング	13
4.3.1 チャネル設定	14
4.3.2 ビーム幅の設定	16
4.3.3 その他の機能	16
第5章 システム構成	18
5.1 PTPステータスの表示	18
5.2 デバイス機能の設定	18
5.3 パラメータ処理	19
5.4 パラメータ設定	19
第6章 ネットワーク設定	22
6.1 TCP/IP パラメータの設定	22
6.2 HTTP(S)の設定	22
6.3 RTSPの設定	22
6.4 WebSocket	23
第7章 システムとセキュリティ	24
7.1 システム構成	24
7.1.1 デバイス情報の表示	24
7.1.2 時刻設定	24
7.1.3 システムサービスの設定	25

7.1.4 パスワードのリセット	25
7.2 システムメンテナンス.....	26
7.2.1 再起動.....	26
7.2.2 アップグレード.....	26
7.2.3 復元と初期化	26
7.2.4 設定ファイルのインポート/エクスポート.....	27
7.2.5 セキュリティ監査ログ	27
7.2.6 SSHパラメータの設定	28
7.2.7 診断情報のエクスポート.....	28
7.2.8 マイク異常の検出	28
7.2.9 元のデータレコード.....	29
7.3 デバイスユーザーの管理	29
7.3.1 不正ログインによるロック	29
第8章 タスクセンター	30
第10章 ヘルプセンター.....	33

第1章 概要

1.1 はじめに

オーディオアシスタントは、オンライン検索、デバイス管理、パラメータ設定などの機能を統合したソフトウェアであり、オーディオデバイスの一括設定やプログラムのアップグレードをサポートし、作業効率を向上させます。

1.2 クライアントのダウンロード先

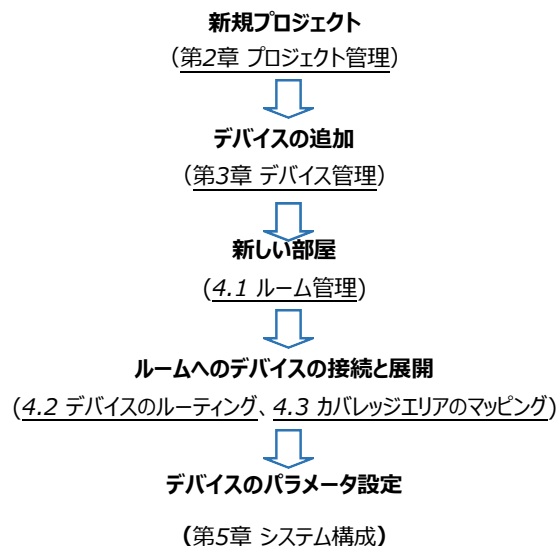
公式ウェブサイト <http://www.hikvision.com/> からオーディオアシスタントソフトウェアを入手してください。

1.3 システム要件

- オペレーティングシステム：Windows^(R) 10（推奨）、Windows^(R) 7 / Windows^(R) 8.1 / Windows^(R) 11
- CPU: Intel^(R)i3-9100@4.2GHz 以上
- RAM：4 GB 以上
- グラフィックカード: GT1030 D5
- HDD：20 GB
- ディスプレイ：1920 × 1080 以上

1.4 動作環境

ソフトウェアを初めて起動する際は、以下の手順に従って設定を行うことをお勧めします（各項目の番号をクリックすると、その説明ページに移動します。）



第2章 プロジェクト管理

新しいプロジェクトの追加

- 方法 1 : ソフトウェアページの左上にある「 + 」をクリックします。
- 方法 2 : ソフトウェアページの左上にある **[Project Management]** をクリックして、プロジェクト一覧ページに移動します。左上にある **[New Project]** をクリックします。

プロジェクトのインポート

プロジェクトリストの左上隅にある **[Import Project]** をクリックし、 をクリックしてファイルを選択し、**[OK]** をクリックします。

プロジェクトリストの表示

プロジェクトリストで、「 ≡ 」をクリックしてプロジェクトをリスト形式で表示するか、「 ☐☐ 」をクリックしてプロジェクトをカード形式で表示します。

プロジェクトの編集

プロジェクト一覧でプロジェクトを選択し、「操作」列の「  」をクリックして、プロジェクト名と備考を編集します。

プロジェクトの削除

プロジェクトリストでプロジェクトを選択し、「操作」列の「  」をクリックして、プロジェクトを削除します。

プロジェクトのエクスポート

プロジェクトリストでプロジェクトを選択し、「操作」列の「  」をクリックして、プロジェクトをエクスポートします。

プロジェクトの表示順の調整

プロジェクト一覧で、「 ⚙ 」をクリックすると、最終編集日時順にプロジェクトを昇順または降順で並べ替えることができます。

プロジェクトの検索

右上隅にプロジェクト名を入力し、「 🔍 」をクリックして、該当するプロジェクトを検索します。

第3章 デバイス管理

管理が必要なデバイスをオンラインで検索した後、デバイスのアクティベーション、ネットワークパラメータの設定、およびデバイスの一括アップグレードを行うことができます。

3.1 デバイスの追加

オンラインのデバイスを検索し、デバイス一覧に追加することができます。デバイスは、IPアドレス、IPアドレス範囲、および一括インポートによって追加できます。

3.1.1 オンラインデバイスの検索と追加

本ソフトウェアは、同じネットワークセグメントまたはローカルネットワーク内のデバイスを自動的に検索し、オンラインデバイスリストをリアルタイムで更新します。

リストには、すべてのオンラインデバイスのモデル、アクティベーションステータス、IPアドレス、ポート番号、ソフトウェアバージョン、IPv4ゲートウェイ、HTTPポートなどが表示されます。



注

- デバイス情報は1分ごとに自動的に更新されます。「更新」をクリックして、デバイス情報を手動で更新することもできます。
- デバイスが3分以上オフラインの状態が続くと、ソフトウェアは自動的にリストからそのデバイスの情報を削除します

1つまたは複数のデバイスを選択し、「デバイスリストに追加」をクリックすると、デバイスリストに追加できます。その他の機能を使用するには、「[その他の機能](#)」を参照してください。

3.1.2 IPアドレスによるデバイスの追加

デバイスの IP アドレス、ポート番号、ユーザー名、およびパスワードを入力して、デバイスを追加できます。手順

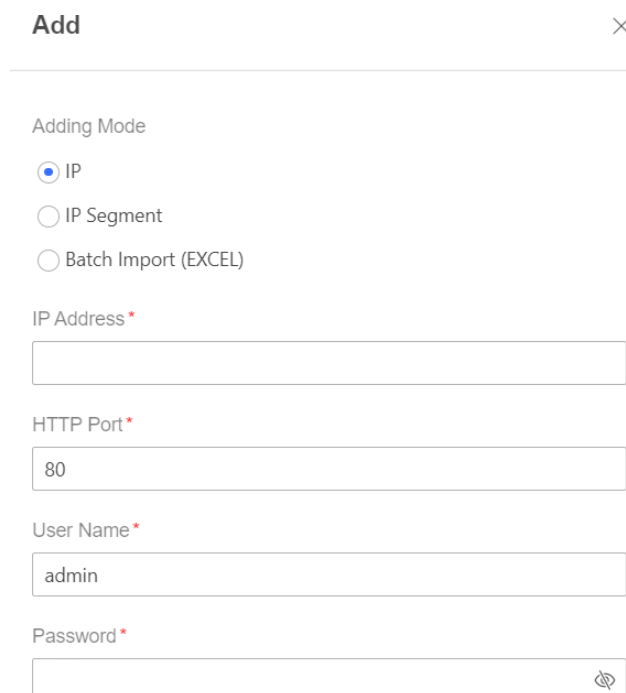
1. 「デバイス管理」の「デバイスリスト」で、「追加」をクリックします。

Device List (6)



図3-1 デバイスの追加

2. 追加モードとして「IP」を選択します。



The screenshot shows a dialog box titled 'Add' with a close button (X) in the top right corner. Inside the dialog, there are several fields and options:

- Adding Mode:** Three radio buttons are present: 'IP' (selected), 'IP Segment', and 'Batch Import (EXCEL)'.
- IP Address *:** A text input field that is currently empty.
- HTTP Port *:** A text input field containing the value '80'.
- User Name *:** A text input field containing the value 'admin'.
- Password *:** A text input field that is empty, with a small eye icon (toggle visibility) on the right side.

図 3-2 IP アドレスによるデバイスの追加

3. デバイスの IP アドレス、HTTP ポート、ユーザー名、およびパスワードを入力します。
4. **[OK]** をクリックします。
追加後、追加されたデバイスが「デバイスリスト」に表示されます。
5. **オプション** : デバイスリストでのその他の操作については、「[その他の機能](#)」を参照してください。

3.1.3 図 3-2 IP アドレスによるデバイスの追加

複数のデバイスのIPアドレスが特定のIPセグメントに属しており、同じユーザー名とパスワードが存在する場合、開始IPアドレスと終了IPアドレスを設定することで、そのIPセグメント内のデバイスを一括してソフトウェアに追加することができます。

手順

1. 「デバイス管理」の「デバイス一覧」で、「**追加**」をクリックします。
2. 追加モードとして「**IP セグメント**」を選択します。

Add

×

Adding Mode

☐ IP

☒ IP Segment

☐ Batch Import (EXCEL)

Starting IP Address *

End IP Address *

HTTP Port *

80

User Name *

admin

Password *

図 3-3 IP セグメントによるデバイスの追加

3. デバイスの開始 IP アドレス、終了 IP アドレス、HTTP ポート、ユーザー名、およびパスワードを入力します。
4. **[OK]** をクリックします。
追加後、追加されたデバイスがデバイスリストに表示されます。
5. **オプション** : デバイス一覧でのその他の操作については、「**その他の機能**」を参照してください。

3.1.4 デバイスの一括インポート

テンプレートファイルにデバイス情報を入力し、そのテンプレートファイルをインポートすることで、ソフトウェアにデバイスを一括追加できます。多数のデバイスに対応しており、大量のデバイス情報を柔軟にインポートするのに適しています

手順

1. 「デバイス管理」の「デバイスリスト」で、「**追加**」をクリックします。
2. 追加モードとして「**一括インポート (Excel)**」を選択します。

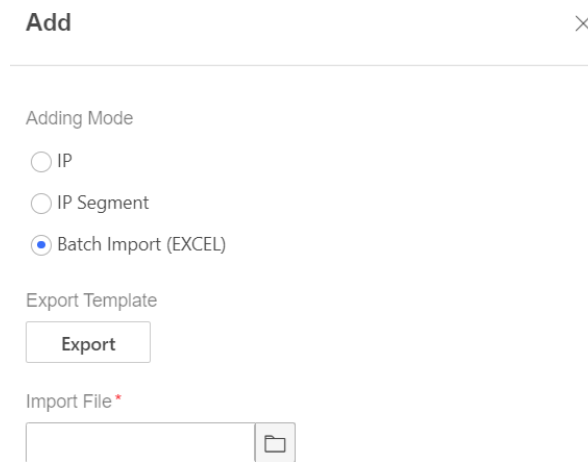


図3-4 Excelによるデバイスのインポート

- 3.「**エクスポート**」をクリックして、テンプレートファイルをローカルPCにダウンロードします。
- 4.ローカルテンプレートファイルに、追加したデバイス情報を入力してください。
5. [] をクリックしてテンプレートファイルを選択し、[**Open**] をクリックします。
6. [**OK**] をクリックします。
追加後、追加されたデバイスが [デバイス一覧] に表示されます。
7. **オプション** : デバイスリストでのその他の操作については、「**その他の機能**」を参照してください。

3.2 一般的な操作

デバイスリストにデバイスを追加した後、デバイスの有効化、ネットワークの設定、パスワードのリセットなどを行うことができます。

3.2.1 デバイスの有効化

ユーザーデータと操作のセキュリティをさらに強化するため、本デバイスは事前にアクティベーションを行う必要があります。

手順

1. 「デバイス一覧」で、有効化されていないデバイスを1つ以上選択します。
2. 新しいパスワードを入力し、確認のため再度入力します。



- プライバシーをより確実に保護し、製品のセキュリティを向上させるため、以下のルールに従って、より複雑なパスワードを設定することを強くお勧めします。パスワードは 8 文字から 16 文字で、数字、小文字、および特殊文字を含める必要があります。
- また、特にセキュリティレベルの高いシステムでは、パスワードを定期的に変更することをお勧めします。毎月または毎週パスワードを変更することで、製品をより確実に保護することができます。

3. 「有効にする」をクリックします。

デバイスの起動後、デフォルトのIPアドレスは192.168.1.64になります。IPアドレスを変更する必要がある場合は、「**ネットワークパラメータの編集**」を参照してください。

3.2.2 ネットワークパラメータの編集

IPアドレス、ポート、サブネットマスク、ゲートウェイなど、複数のデバイスパラメータを編集できます。

開始する前に

デバイスがアクティブになっていることを確認してください。

手順

1. ネットワークパラメータの編集が必要な複数のデバイス、またはすべてのデバイスを選択します。



「」または「」をクリックして、「アクティベーションおよびネットワークパラメータ」ウィンドウを展開または非表示にします。

2. 開始IPアドレス、ポート、サブネットマスク、ゲートウェイなどのパラメータを入力してください。

3. **管理者パスワード**を入力します。

4. **[OK]** をクリックします。

3.2.3 デバイスの一括アップグレード

デバイスを追加した後、そのデバイスを一括アップグレードすることができます。この機能は、特定のデバイスでのみサポートされています。オンラインのデバイスのみがアップグレード可能です。

手順

1. 「デバイス管理」ページの「デバイス一覧」で、1つ以上のデバイスを選択し、「**アップグレード**」をクリックします。

2. アップグレードモードを選択します。

- － ローカルアップグレード。

1. 「**メインプログラム別**」または「**モジュール別**」を選択してください。



「**モジュール別**」を選択した場合は、アップグレード対象のモジュール（MCU またはカードリーダー）を選択する必要があります。カードリーダーを選択した場合は、カードリーダー番号を入力してください。

2. 「」をクリックして、ローカルPCからアップグレードパッケージを選択します。

3. 実行モードを設定します。

- － シリアル：複数のアップグレードプログラムが順番に実行されます。
- － 並列：複数のアップグレードプログラムが同時に実行されます。

4. **[OK]** をクリックします。

3.2.4 その他の機能

[デバイスリスト] では、リモート設定、デバイスの更新、デバイスの再起動なども行うことができます。以下の操作を行ってください。



デバイスは以下の機能をサポートしている必要があります。

操作	説明
リモート設定	デバイスの [操作] 列で、[] をクリックしてデバイスの [リモート設定] ページに入り、デバイスパラメータを編集します。
デバイスリストの更新	[更新] をクリックして、デバイス一覧を更新します。
デバイスのアップグレード	1つ以上のデバイスを選択します。「 アップグレード 」をクリックして、デバイスのアップグレードページに移動します。詳細については、 3.2.3 一括アップグレードデバイス を参照してください。
時刻設定	1つ以上のデバイスを選択します。「 時刻設定 」をクリックして、デバイスの時刻を設定します。詳細については、「 時刻パラメータの設定 」を参照してください。
デバイスの再起動	1つ以上のデバイスを選択し、「 再起動 」をクリックしてから、ポップアップウィンドウで「 OK 」をクリックします。
デバイスのリセット	1 つ以上のデバイスを選択し、「リセット」をクリックしてリセットモードを選択し、デバイスをリセットします。 復元 : ユーザー名、パスワード、アクティベーションステータス、ネットワーク設定、および IP アドレスを除き、すべての設定がデフォルト値にリセットされます。 工場出荷時の設定に復元 : デバイスがデフォルト設定にリセットされます。
デバイスの削除	1 つ以上のデバイスを選択し、「 削除 」をクリックしてデバイスを削除します。
デバイスの検索	デバイス名を入力し、「  」をクリックしてデバイスを検索します。

第4章 マイルーム

4.1 部屋の管理

新しいルームを追加

左側の「マイルーム」をクリックして、ルーム一覧ページに移動します。左上隅の「新しいルーム」をクリックします。
ルーム情報を設定します。

ルームのインポート

ルーム一覧で、左上の「Import Room」をクリックし、「」をクリックしてファイルを選択し、「OK」をクリックします。

ルームの編集

ルームリストでルームを選択し、「操作」列の「」をクリックして、ルーム名と備考を編集します。

ルームの削除

ルーム一覧でルームを選択し、「操作」列の「」をクリックして、そのルームを削除します。

部屋のエクスポート

ルームリストでルームを選択し、「操作」列の「」をクリックして、そのルームをエクスポートします。

部屋の詳細

- 方法 1：ルームリストでルームをダブルクリックしてルームの詳細画面に入り、ルーティング用のデバイスやその他の設定を行います。詳細については、[4.2 デバイスのルーティング](#)を参照してください。
- 方法 2：部屋一覧から部屋を選択します。「操作」列の「」をクリックして、部屋の詳細画面を開き、デバイスのルーティングやその他の設定を行います。詳細については、[4.2 デバイスのルーティング](#)を参照してください。

4.2 デバイスのルーティング

デバイス間の接続を作成します。手順

1. [\[デバイスの追加\]](#) をクリックし、追加するデバイスのリストからデバイスを選択します。

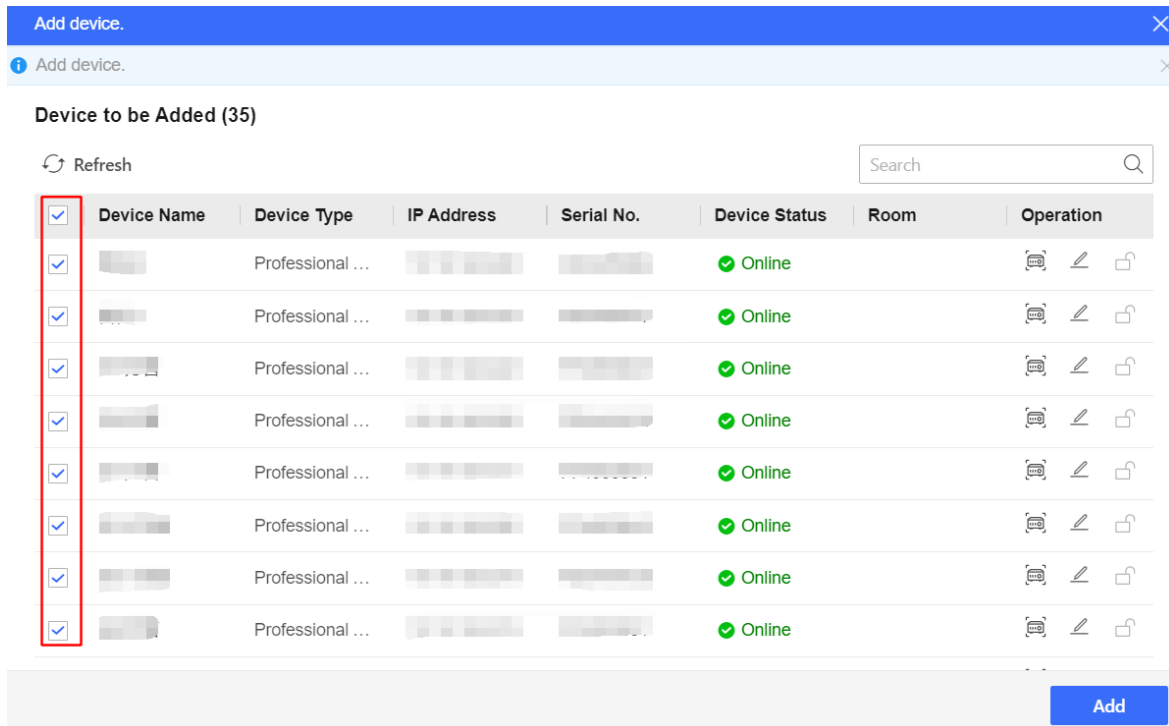


図 4-1 デバイスと部屋の関連付け

2. **[追加]** をクリックして、デバイスを現在のデバイス一覧に追加します。
3. デバイスを右側の描画プレートに追加します。
 - 方法 1. デバイス一覧から追加するデバイスを選択し、下部の「インポート」をクリックします。
 - 方法2. デバイスを選択し、デバイスリストから右側へ直接ドラッグします。
4. 描画プレート上でデバイスを選択し、正しい位置に調整します。
5. 必要に応じて接続します：アイコンが「+」に変わったら、青い点線をドラッグ＆ドロップでき、インターフェースに薄緑色の円が表示されます。接続後、青い点線は青の実線に変わります。

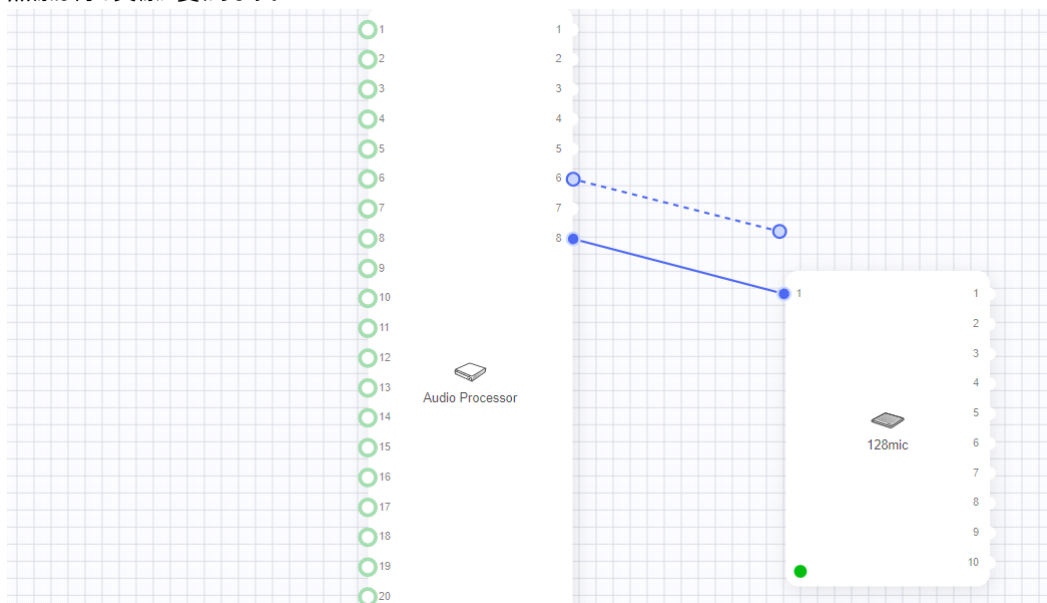


図4-2 デバイスの接続

6. 詳細については**4.2.1「その他の機能」**を参照し、設定後に「**デプロイ**」をクリックしてください。



オフラインのデバイスがある場合、デプロイはサポートされません。

4.2.1 その他の機能



以下の機能は、一部のモデルでのみサポートされています。

表 4-1 その他の機能の説明

操作	説明
デバイスの属性を表示	図面プレートでデバイスを選択し、「  」をクリックしてデバイスの属性を表示します。デバイスの属性が展開されている場合は、デバイスを選択して直接表示することができます。デバイスの属性には、デバイス名、デバイスモデル、デバイスステータスなどが含まれます。
デバイス名の編集	- 方法 1: [デバイス属性] ページでデバイス名を編集します。 - 方法 2: 「デバイスの追加」ページで「」をクリックし、デバイス名を編集します。
デバイスの設定	描画プレート上のデバイスをダブルクリックするか、[デバイス属性] ページで 【構成】 をクリックして、[システム構成] ページに入ります。ここでデバイスのパラメータを設定できます。詳細については、 第5章「システム構成」 を参照してください。
デバイスの識別	- 方法 1: 「デバイス属性」ページで「デバイスの識別」をクリックし、デバイスの白色ライトを 10 回点滅させます。 - 方法 2: 「Add Device」ページで「」をクリックし、デバイスの白色ライトを 10 回点滅させます。
描画プレートからデバイスを削除する	デバイスを選択し、キーボードのDeleteキーを押して、表示されるポップアップ画面で「 OK 」をクリックします。これにより、そのデバイスは図面プレートから削除され、「現在のデバイス」リストに戻ります。
デバイスと部屋のリンクを解除する	デバイス（オーディオプロセッサを除く）は、1つのルームにのみ追加できます。他のルームにデバイスを追加する必要がある場合は、追加済みのデバイスのリンクを解除する必要があります。 - 方法 1: 「現在のデバイス」リストからリンクを解除するデバイスを選択し、「削除」をクリックします。 - 方法 2: 「」をクリックし、「Add Device」ページでデバイスのリンクを解除します。 リンク解除後、そのデバイスを他のルームに追加できるようになります。

操作	説明
図面プレートでのデバイスインターフェース接続の調整	接続を削除する：接続をクリックして選択し、赤い実線になったら、キーボードのDeleteキーを押します。 接続の編集：クリックして接続されたインターフェースを選択し、接続が青色の点線になったら、新しいインターフェースに接続します。
描画プレートの比率を調整する	- 方法 1：マウスホイールを回転させて、拡大または縮小します。 - 方法 2：描画プレートの左下隅にあるアイコンをクリックして調整します。 - ：拡大。- ：縮小。：適応。

4.3 カバレッジエリアのマッピング



この機能は一部の端末でのみ対応しています。詳細については、お使いの端末をご確認ください。

手順

1. 「カバレッジエリアのマッピング」をクリックしてページを開きます。
2. 必要に応じて部屋のサイズ情報を入力し、画像を追加します。

Room Settings
×

Room Dimensions * m

Long10.0
Wide10.0

High3.0

Add Room Diagram

+

Add

Cancel

OK

図4-3 部屋の設定

3. 「OK」をクリックします。
4. 画像を追加する際は、2 点間の線分の実際の長さであるスケールを設定する必要があります。画像は、実際の部屋のサイズが表示されるように拡大または縮小されるため、デバイスやオーディオのカバレッジを確認することができます。

Set Scale

Set the actual length of a two-point line segment to establish the map scale.

3.0 m

Set Scale

図 4-4 スケールの設定

5. デバイスの位置を調整します。
 - 方法 1：描画画面でデバイスを選択し、正しい位置に調整します。
 - 方法 2：左側の「デバイス設定」ページで追加されたデバイスをクリックして選択し、デバイスの設置場所情報を入力します。
6. 一部のデバイスでは、チャンネルの追加に対応しています。[4.3.1 チャンネル設定](#)を参照してください。
7. 一部のデバイスは、ビーム幅の設定に対応しています。[4.3.2 ビーム幅の設定](#)を参照してください。
8. 詳細については [4.2.1 その他の機能](#)を参照し、設定後に **[展開]** をクリックしてください。



オフラインのデバイスがある場合、デプロイはサポートされません。

9. デプロイが完了したら、「オーディオテスト」をクリックしてデバイスの状態を確認してください。



青はデバイスが正常であることを示し、灰色はデバイスが異常であることを示します。

4.3.1 チャンネルの設定



この機能は一部のデバイスでのみサポートされています。詳細については、実際のデバイスをご参照ください。

手順

1. 左側の「デバイス設定」で追加したデバイスを選択し、「**チャンネルの追加**」をクリックします。

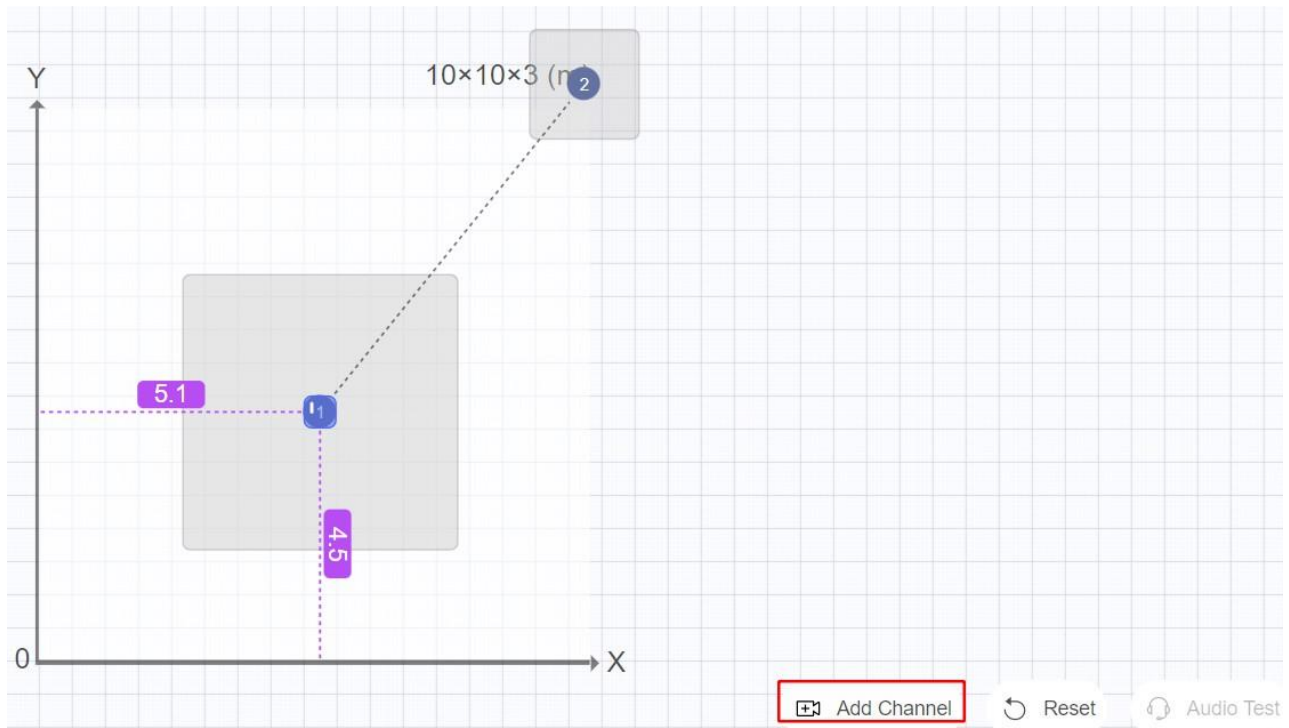


図4-5 チャンネルの追加

2. クリックしてチャンネル領域を選択すると、その領域が編集可能になります。実際の必要に応じて領域のサイズを調整してください。

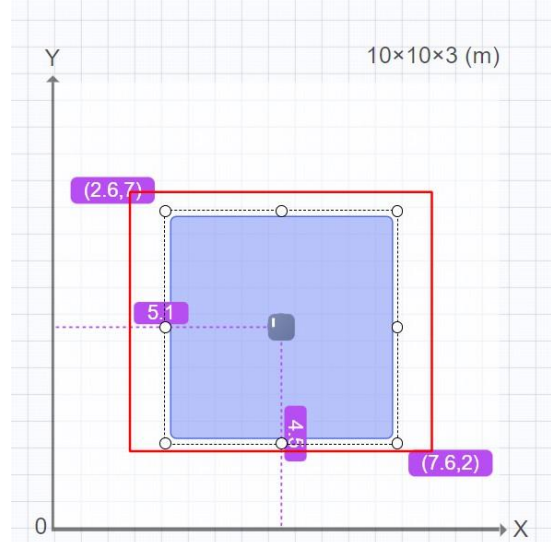


図4-6 エリアの調整

3. 「デバイス設定」ページで**ゲイン**を設定します。設定可能範囲：-100 ～ 20。
 4. 「デバイス設定」ページで、必要に応じてチャンネルエリアのミュートを有効または無効にしてください。



- デフォルトでは 1 つのチャンネルがあり、少なくとも 1 つのチャンネルがあり、最大 8 つのチャンネルを追加できます。
- 同じデバイスのチャンネルエリアは重複できません。

- 不要なチャンネルを選択し、「チャンネルを削除」をクリックします。

4.3.2 ビーム幅の設定



この機能は一部のデバイスでのみサポートされています。詳細については、実際のデバイスをご参照ください。

手順

1. 描画プレートでビームアイコンのデバイスを選択します。

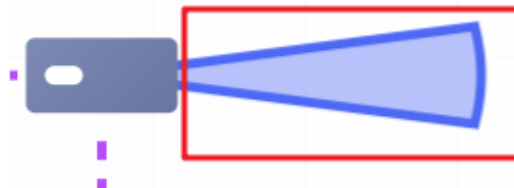


図4-7 ビームアイコン

2. 「デバイス設定」ページでビーム幅を設定します。範囲は 0 ～ 180°、ステップは 4°です。

4.3.3 その他の機能



以下の機能は、特定のモデルでのみサポートされています。

表4-2 More関数の説明

操作	説明
部屋の寸法を編集	「Room Settings」ページで部屋の寸法情報を入力します。
画像の編集	- 画像が追加されている場合は、「Room Settings」ページで「Edit Image」をクリックします。画像を選択し、ドラッグ&ドロップして描画プレート上の位置を調整します - 画像の左上隅にある「○」をクリックするか、「Rotation Degree」を入力して、画像の角度を調整します。任意の場所をクリックして編集状態を終了します。 「Room Settings」ページで透明度バーをドラッグして、画像の透明度を編集します。デフォルトでは、透明度は80%です。
画像の削除	画像が追加されている場合は、「ルーム設定」ページで「 画像を削除 」をクリックできます。

画像を追加	画像が追加されていない場合は、ルーム設定ページで「 画像を追加 」をクリックし、ポップアップページで「 追加 」をクリックして、追加する画像を選択し、
-------	---

操作	説明
	OK をクリックします。
デバイスの回転	● 方法 1 : デバイスを選択し、「デバイス設定」ページで「回転角度」を入力します。 ● 方法 2 : デバイスを選択し、画像の左上隅にある [] をクリックして、デバイスを回転させます。 ● 方法 3 : デバイスを選択し、描画プレートの右下隅にある [Rotate Device] をクリックします。クリックするたびに、デバイスが時計回りに15°回転します。
デバイスの設定	描画プレート上のデバイスをダブルクリックするか、[デバイス設定] ページで [設定] をクリックして、[システム設定] ページを開きます。ここでデバイスのパラメータを設定できます。詳細については、 第5章「システム設定」 を参照してください。
デバイスの識別	「デバイス設定」ページで「 デバイスの識別 」をクリックすると、デバイスのランプが白く10回点滅します。
リセット	描画プレートの右下隅にある「 リセット 」をクリックし、「 OK 」をクリックします。「カバレッジエリアマッピング」ページのすべての設定がデフォルト設定に復元されます。「 OK 」をクリックします。
描画領域の拡大縮小	● 方法 1 : マウスホイールを回転させて、表示倍率を拡大または縮小します。 ● 方法 2 : 描画領域の左下隅にあるアイコンをクリックして調整します。 -  : 拡大。-  : 縮小。-  : 自動調整。

第5章 システム設定

「システム設定」ページでは、PTPステータスの確認、デバイス機能の設定、デバイスパラメータのインポート/エクスポート、オーディオアルゴリズムパラメータの設定などを行うことができます。

システム設定ページへのアクセス方法：

- 方法 1：[Device Management] ページの [Device List] エリアにある [Operation] 列の [⚙️] をクリックします。
- 方法 2：作成したルーム内で、描画プレート上のデバイスをダブルクリックするか、[デバイス属性] ページで [構成] をクリックします。

5.1 PTPステータスの確認

ページの左上隅にある [✅] にマウスを合わせると、デバイス情報、メインおよびサブ情報、ステータス（ロック/アンロック）、IP アドレスなどの PTP (Precision Time Protocol) ステータスを確認したり、PTP パラメータを設定したりできます。

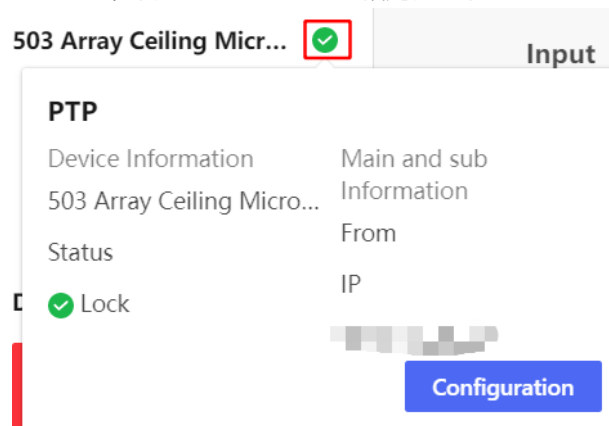


図 5-1 PTP

5.2 デバイスの機能設定



設定パラメータは、デバイスのモデルによって異なります。詳細については、実際のデバイスをご参照ください。

ミュート：有効／無効

クリックしてミュート機能を有効または無効にします。

デバイスの識別

「**デバイスの識別**」をクリックすると、デバイスのランプが白く10回点滅します。

クイックアプリケーション

「**クイックアプリケーション**」をクリックして、制御対象の 128MIC アレイマイクの IP アドレスを追加します。追加されたアレイマイクは、音が出ない状態のままになります。

ビーム設定

「**ビーム設定**」をクリックして、0～180°の範囲でビーム幅を設定します。設定ステップは4°です。

一部のデバイスでは、極角（ビームの中心とビームの中心線との角度）を設定できます。また、一部のデバイスでは、カスケードモードの設定、カーソルを合わせたり聴取したりしてステータスを編集したり、設置高さ、聴取高さ、聴取距離などを設定したりすることもできます。

スピーカーテスト

「**スピーカーテスト**」をクリックし、「**オーディオソースのテスト**」と「**スピーカーのテスト**」を選択して、「**テスト**」をクリックするとテストが開始されます。「**テストを停止**」をクリックするとテストが終了します。

プロフェッショナルモード／通常モードへの切り替え

クリックして、パラメータ設定モードをプロフェッショナルモードまたはノーマルモードに切り替えます。プロフェッショナルモードとノーマルモードの設定パラメータは若干異なります。

5.3 パラメータ処理

パラメータのエクスポート

「**パラメータのエクスポート**」をクリックして、設定パラメータ情報をエクスポートします。

パラメータのインポート

「**パラメータのインポート**」をクリックして、設定パラメータを一括でインポートします。

リセット

「**リセット**」をクリックして、デフォルト設定に戻します。

5.4 パラメータ設定



設定パラメータは機種によって異なります。詳細については、実際の機器をご確認ください。

表 5-1 パラメータの説明

パラメータ	説明
COMP	コンプレッサーは、信号の出力範囲を圧縮し、後段の回路を保護するために使用されます。実際のニーズに応じて、 スレッシュホールド 、 レシオ 、 スタートタイム 、 リリースタイム を設定できます。
Delay	Delayは、信号出力の遅延時間を延長するために使用されます。実際のニーズに応じて Delay Time を設定できます。
ALC	ALCは、信号の出力レベルを線形に調整するために使用されます。実際のニーズに応じて ゲイン を設定できます。
ポストALC	ポストALCは、信号の出力レベルを直線的に調整するために使用されます。実際のニーズに合わせて ゲイン を設定できます。
Pre-ALC	Pre-ALCは、信号の出力レベルを直線的に調整するために使用されます。実際のニーズに合わせて ゲイン を設定できます。
PEQ	ハイパス・ローパスフィルター、ハイシェルフ・ローシェルフフィルター、およびピークフィルターにより、出力信号の周波数、帯域幅、振幅を調整できます。
ノイズゲート	ノイズゲートは、出力信号のノイズ閾値を調整するために使用されます。実際のニーズに応じて、 スレッシュホールド 、 スタートタイム 、および リリースタイム を設定できます。
HPF	ハイパスフィルターは、低周波の干渉を除去するために使用されます。
LPF	ローパスフィルターは、高周波のノイズを除去するために使用されます。
H-シェルフ	ハイシェルフ・フィルターは、信号の振幅が設定された周波数ポイントを超えた場合に、その振幅を増幅または減衰させるために使用されます。
Lシェルフ	ローシェルフフィルターは、信号の振幅が設定周波数より低い場合に、その振幅を増幅または減衰させるために使用されます。
ノッチフィルター	ノッチフィルターは、中心周波数、帯域幅、および品質係数を制御できるフィルターです。実際のニーズに応じて、 周波数ポイント 、 帯域幅 、および ゲイン を設定できます。
アナログ入力レベル	アナログ信号の入力レベル。実際のニーズに合わせてレベルを選択してください。
アナログ出力レベル	アナログ信号の出力レベル。実際のニーズに合わせてレベルを選択してください。
MIC	アレイマイク入力。実際のニーズに合わせて ゲイン を設定できます。
AEC REF	Linein-Ref 、 AES67 IN-Ref 、および Gain は、実際のニーズに合わせて設定できます。
ANS	実際のニーズに応じて、 ノイズリダクションレベル を設定できます。
AEC REFLinein-Ref, AES67 IN-Ref, およびGainを実際のニーズに合わせて設定	デジタル信号では、実際のニーズに応じて、 サンプリングレート 、 ビット幅 、 エンコーディング形式 、および ビットレート を設定できます。
HS	ハウリング抑制では、 抑制モード 、 抑制能力 、 抑制時間 、および

パラメータ	説明
	実際のニーズに応じて、 抑制モード、抑制能力、抑制時間、および抑制フィルタ の数を設定できます。
AGC	ハウリング抑制は、実際のニーズに応じて、 抑制モード、抑制能力、抑制時間、およびパラメータ説明抑制フィルター を設定するために使用されます。 を実際のニーズに合わせて設定できます。
出力ソース	実際のニーズに応じて、出力信号のソースを選択してください。
AEC	エコーキャンセレーションは、双方向音声通信のシーンで使用されます。 長さ、非線形レベル、およびエコー遅延 を実際のニーズに合わせて設定できます。AECとAFCは同時に有効にすることはできません。
AFC	フィードバックキャンセルは、音響増幅の場面で使用されます。実際のニーズに応じて、 長さ と 次数 を設定できます。AEC と AFC を同時に有効にすることはできません。
内蔵NNR	内部の非定常ノイズリダクション。
EXP	実際のニーズに応じて、 Threshold、Ratio、Compression Rate、Start Time、Release Time、Gain、Speed を設定できます。
ミュート	実際の必要に応じて、この機能を有効または無効にしてください。
ファンタム電源	実際のニーズに応じて、この機能を有効または無効にしてください。有効にすると、本機のアナログオーディオ入力インターフェースでファンタム電源が利用可能になります。
最大オープンチャンネル数	ミキシング出力の最大チャンネル数。
「最後に接続されたマイク」を有効にする	実際のニーズに応じて、この機能を有効または無効にしてください。有効にすると、すべてのマイクの電力が低下している場合、最後に接続されたマイクのみが使用されます。
減衰を無効にする	減衰のエネルギーを固定します。
感度	チャンネルの入力エネルギーレベルを検出します。設定された感度よりも大きい場合、減衰は適用されません。設定された感度よりも小さい場合、減衰が適用されます。
ホールド時間	内部検出ロジックの有効なウィンドウ時間。

第6章 ネットワーク設定

ネットワークパラメータの設定方法について説明します。

[Device Management] ページの [Device List] エリアにある [Operation] 列の [] をクリックします。

6.1 TCP/IP パラメータの設定

デバイスが正常に動作するように、TCP/IP パラメータを設定します。

[設定] → [ネットワーク] → [ネットワーク設定] → [TCP/IP] の順に移動してパラメータを設定し、[保存] をクリックします。

IPv4 アドレス

IPv4アドレス、IPv4サブネットマスク、IPv4デフォルトゲートウェイ、およびその他のLANパラメータを手動で入力します。

DNSサーバーの設定

利用可能な正しい DNS サーバーアドレスを設定すると、ドメイン名でデバイスにアクセスできるようになります。

6.2 HTTP(S) の設定

HTTP(S) パラメータには、HTTP ポートと HTTPS ポートが含まれます。必要に応じて、対応するポートを設定してください。

[設定] → [ネットワーク] → [ネットワークサービス] → [HTTP(S)] に移動してパラメータを設定し、[保存] をクリックします。HTTP ポート

ブラウザでログインする場合は、アドレスの後に変更後のポート番号を追加する必要があります。

HTTPのポート番号が81に変更されている場合、ブラウザからログインする際は `http://192.0.0.65:81` と入力してください。

HTTPS ポート

ブラウザアクセス用に HTTPS ポートを設定し、証明書の検証が必要となります。

6.3 RTSP の設定

RTSP (Real Time Streaming Protocol) は、ストリーミングメディア用のアプリケーション層制御プロトコルです。

手順

1. [設定] → [ネットワーク] → [ネットワークサービス] → [RTSP] に移動します。
2. ポートを入力します。
3. 「保存」をクリックします。

6.4 WebSocket

Google Chrome 57 以降または Mozilla Firefox 52 以降を使用してデバイスにアクセスする場合は、WebSocket プロトコルを有効にする必要があります。有効にしない場合、ライブビュー、画像キャプチャ、デジタルズームなどは使用できません。

[設定] → [ネットワーク] → [ネットワークサービス] → [WebSocket] に移動してパラメータを設定し、[保存] をクリックします。

WebSocket

HTTP プロトコルを介してプラグイン不要でプレビューを行うための、TCP ベースの全二重通信プロトコルポート。

WebSockets

HTTPS プロトコルを介してプラグイン不要でプレビューを行うための、TCP ベースの全二重通信プロトコルポート。

第 7 章 システムとセキュリティ

ここでは、システムのメンテナンス、システム設定、およびセキュリティ管理について紹介し、関連するパラメータの設定方法を説明します。

「デバイス管理」ページの「デバイスイ覧」エリアにある「操作」列の「」をクリックします。

7.1 システム構成

7.1.1 デバイス情報の表示

「デバイスモデル」、「シリアル番号」、「ファームウェアバージョン」などのデバイス情報を表示できます。

[Configuration] → **[System]** → **[System Configuration]** → **[Basic Information]** に移動して、デバイス情報を表示します。



「デバイス名」は、必要に応じてカスタマイズできます。

7.1.2 時刻の設定

タイムゾーンと時刻同期を設定することで、デバイスの日時を設定できます

NTPサーバーの設定

正確で信頼性の高い時刻ソースが必要な場合は、NTPサーバーを使用できます。

開始する前に

NTP サーバーを設定するか、NTP サーバーの情報を取得してください。

手順

1. **[設定]** → **[システム]** → **[システム設定]** → **[時刻設定]** に移動します。
2. 「**タイムゾーン**」を選択します。
3. 「**NTP 同期**」をクリックします。
4. サーバーの **IP アドレス**、**NTP ポート**、および**間隔**を設定します。



サーバーのIPアドレスは、NTPサーバーのIPアドレスです。

5. **[保存]**をクリックします。
-

手動で時刻を同期する

デバイスの時刻を手動で設定する場合、またはデバイスの時刻を現在のコンピュータの時刻と同期させる場合に使用します。

手順

1. **【設定】** → **【システム】** → **【システム設定】** → **【時刻設定】** に移動します。
2. **「タイムゾーン」**を選択します。
3. **「手動で時刻を同期」**をクリックします。
4. いずれかの時刻同期方法を選択します。
 - － **「時刻を設定」**を選択し、日付と時刻を手動で入力するか、ポップアップカレンダーから選択します。
 - － **「コンピュータの時刻と同期する」**にチェックを入れて、デバイスの時刻をローカルPCの時刻と同期させます。
5. **【保存】** をクリックします。

7.1.3 システムサービスの設定

【設定】 → **【システム】** → **【システム設定】** → **【システムサービス】** に移動します。必要に応じて LED インジケータを有効または無効にし、**【デバイス遅延】**を選択して、**【保存】** をクリックします。



LED インジケータライトが無効になっている場合でも、「デバイスの識別」機能は引き続きサポートされています。

7.1.4 パスワードのリセット

【設定】 → **【ユーザー管理】** に移動し、 をクリックして、リセットする旧パスワードと新パスワードを入力します。



- 管理者ユーザーのパスワードをリセットする際は、デバイスとコンピュータが同じLANに接続されていることを確認してください。
 - デバイスのリセット方法は機種によって異なります。詳細については、お手元のデバイスをご確認ください。
 - デバイスのパスワードリセットに失敗した場合は、お近くのアフターサービスセンター、またはテクニカルサポートにお問い合わせください。
-

7.2 システムメンテナンス

デバイスのログ検索、再起動、アップグレード、バックアップ、およびデバッグ設定を提供します。

7.2.1 再起動

クライアント経由でデバイスを再起動できます。

「メンテナンスとセキュリティ」→「システムメンテナンス」→「再起動」の順に進み、「再起動」をクリックします。

7.2.2 アップグレード

開始する前に

適切なアップグレードパッケージを入手する必要があります。



注意

プロセス中は電源を切らないでください。アップグレード後、デバイスは自動的に再起動します。

手順

1. [Maintenance and Security] → [System Maintenance] → [Upgrade] に移動します。
2. 「」をクリックして、アップグレードファイルを選択します。
3. 「アップグレード」をク

リックします。次の手順

「設定」→「システム」→「システム設定」→「基本情報」に移動し、バージョンが更新されているか確認してください。

7.2.3 復元と初期化

「復元と初期化」は、デバイスのパラメータをデフォルト設定に復元するのに役立ちます。

手順

1. 「メンテナンスとセキュリティ」→「システムメンテナンス」→「バックアップと復元」に移動します。
2. 必要に応じて、「デフォルトに復元」または「工場出荷時に復元」をクリックします。

デフォルトに復元

ネットワーク設定およびユーザーアカウントを除くすべてのデータが消去されます。

工場出荷時の状態に復元

すべての機能と設定が工場出荷時の設定に戻ります。



注意

この機能を使用する際はご注意ください。工場出荷時の設定にリセットすると、すべてのパラメータがデフォルト設定に戻ります。

7.2.4 設定ファイルのインポート/エクスポート

これにより、同じパラメータを持つ他のデバイスでの一括設定を迅速に行うことができます。

手順

1. 設定ファイルをエクスポートします。
 - 1) 「メンテナンスとセキュリティ」→「システムメンテナンス」→「バックアップと復元」→「バックアップ」に移動します。
 - 2) 「エクスポート」をクリックし、暗号化パスワードを入力して、現在の設定ファイルをエクスポートします。
 - 3) 設定ファイルをローカルコンピュータに保存するための保存先を設定します。
2. 設定ファイルをインポートします。
 - 1) 設定が必要なデバイスにアクセスします。
 - 2) 「メンテナンスとセキュリティ」→「システムメンテナンス」→「バックアップと復元」→「デフォルト」の順に移動します。
 - 3) [] をクリックして、保存した設定ファイルを選択します。
 - 4) 設定ファイルのエクスポート時に設定した暗号化パスワードを入力します。
 - 5) [インポート] をクリックします。

7.2.5 セキュリティ監査ログ

セキュリティ監査ログとは、セキュリティ運用ログを指します。デバイスのセキュリティログファイルを検索・分析することで、セキュリティイベントのトラブルシューティングを行うことができます。

セキュリティ監査ログは、デバイスの内部ストレージに保存できます。ログは、デバイスの起動後、30分ごとに保存されます。ストレージ容量に限りがあるため、ログをログサーバーに保存することも可能です。

セキュリティ監査ログの検索

デバイスのセキュリティログファイルを検索・分析し、セキュリティイベントのトラブルシューティングを行うことができます。

手順



注

この機能は、特定のモデルでのみサポートされています。

1. 「メンテナンスとセキュリティ」→「システムメンテナンス」→「セキュリティ監査ログ」に移動します。
2. ログの種類、**開始時刻**、**終了時刻**を選択します。
3. 「検索」をクリックします。

検索条件に一致するログファイルが「ログ一覧」に表示されます。
4. オプション：「エクスポート」をクリックして、ログファイルをコンピュータに保存します。

ログサーバーの設定

セキュリティログをログサーバーにアップロードして保存します。

開始する前に

ログサーバーの IP アドレスとポートを取得します。

手順

1. **[詳細設定]** をクリックします。
2. **「ログアップロードサーバーを有効にする」**にチェックを入れます。
3. オプション：ログデータを暗号化したい場合は、**「暗号化通信を有効にする」**にチェックを入れます。
4. **「ログサーバーのアドレス」と「ログサーバーのポート」**を入力します。
5. **[保存]** をクリックします。

7.2.6 SSH パラメータの設定

Secure Shell (SSH) は、セキュリティ保護されていないネットワーク上でネットワークサービスを運用するための暗号化ネットワークプロトコルです。

[メンテナンスとセキュリティ] → **[システムメンテナンス]** → **[デバイスのデバッグ]** に移動し、**[SSH を有効にする]** をチェックします。



この機能は慎重にご利用ください。この機能を有効にすると、デバイス内部情報の漏洩というセキュリティ上のリスクが生じます。

7.2.7 診断情報のエクスポート

実行ログ、システム情報、ハードウェア情報などを含む、デバイスの稼働状況診断情報をエクスポートします。

「保守・セキュリティ」→**「システム保守」**→**「デバイスデバッグ」**の順に進み、**「エクスポート」**をクリックして、診断情報モジュール内のデバイス診断情報をエクスポートします。

診断情報には、稼働ログ、システム情報、ハードウェア情報が含まれます。

「メンテナンスとセキュリティ」→**「システムメンテナンス」**→**「デバイスデバッグ」**→**「診断情報」**に移動します。**「エクスポート」**をクリックして、デバイスの診断情報をエクスポートします。

7.2.8 マイク異常の検出

マイクのステータスを検出します。

「メンテナンスとセキュリティ」→**「システムメンテナンス」**→**「マイク異常検知」**に移動し、

「**検出**」をクリックして検出結果を表示します。

7.2.9 元のデータ記録

MicroSDカードが挿入されていない場合、または挿入されているMicroSDカードに異常がある場合、デバイスの内蔵ストレージディスクに音声ファイルを保存できます。

手順

1. 「**メンテナンスとセキュリティ**」→「**システムメンテナンス**」→「**生データ記録**」に移動します。
2. EMMC または USB への記録を選択します。
3. **データタイプ**を選択します。
4. 「**録音を開始**」をクリックします。
5. (オプション) 必要に応じてパスを編集します。
6. 「**記録を停止**」をクリックします。
7. オーディオファイルをまとめてダウンロードするには、1つ以上のフォルダを選択してください。

7.3 デバイスのユーザーを管理

7.3.1 不正ログインによるロック

インターネット経由でデバイスにアクセスする際のセキュリティを向上させるのに役立ちます。

[**メンテナンスとセキュリティ**] → [**セキュリティ**] → [**ログイン管理**] に移動し、[**不正ログインロックを有効にする**] を有効にします。[**不正ログインの試行回数**] および [**ロック期間**] は設定可能です。

不正ログインの試行回数

設定された回数分の誤ったパスワードによるログイン試行が行われると、デバイスはロックされます。

ロック期間

設定された時間が経過すると、デバイスのロックが解除されます。

第8章 タスクセンター

サービスモジュールを介してパラメータを一括適用する場合、ユーザーは自動的にタスクを生成し、タスク一覧に追加します。ユーザーはタスク一覧でタスクの実行進捗やステータスを確認でき、タスク一覧内でタスクの詳細を確認できます。

フローティング タスク センター

タスクが適用されると、ソフトウェアの右下隅でタスク名と進捗状況を確認できます。「詳細を表示」、「一時停止」、「削除」をクリックして操作を行うことができます。

タスク一覧

「詳細を表示」をクリックするか、「タスクセンター」をクリックしてタスクリストを開きます。
各タスクの設定進捗、デバイス情報、設定内容などを確認し、以下の操作を行うことができます。

表 8-1 進行中のタスク一覧の操作

操作	説明
タスクの一時停止/再開	[操作] 列で、[④] または [⑤] をクリックして、タスクを一時停止または開始します。
タスクの削除	[操作] 列で、[⑥] をクリックしてタスクを削除します。
すべて開始	「Start All」をクリックして、一時停止中のすべてのタスクを開始します。
すべての一時停止	「すべて一時停止」をクリックして、すべての変換タスクを一時停止します。
すべて削除	「すべてクリア」をクリックすると、すべてのタスクがクリアされます。
タスクの検索	タスク名を入力し、「 🔍 」をクリックしてタスクを検索します。

表 8-2 タスク一覧の操作

操作	説明
構成ステータスでフィルタリング	[ステータス] 列で、[⑦] をクリックして、アプリケーションの進捗状況に基づいてフィルタリングします。
失敗したタスクの詳細を表示	「適用に失敗しました」ステータスにカーソルを合わせ、「詳細を表示」をクリックして、ポップアップに表示される詳細を確認します。
失敗したタスク情報の編集	失敗したアプリケーションの場合、タスクの詳細で失敗したパラメータにカーソルを合わせてエラーコードとエラーメッセージを確認し、「編集」をクリックしてパラメータを編集できます。
再申請	タスクの詳細で、個々のパラメータの [⑧] をクリックすると、エラーデータを再適用できます。

操作	説明
すべてのエラーを再試行	タスクの詳細画面で、「 すべてのエラーを再試行 」をクリックし、修正したすべてのパラメータを再適用します。
履歴を消去	【クリア】 をクリックして、すべてのタスク記録を消去します。

第9章 レポート

レポートでは、プロジェクトのデバイス一覧を表示およびエクスポートできます。これは、後でプラットフォームにアクセスしたり、デバイスをメンテナンスしたりする際に使用できます。

左側の **【レポート】** をクリックして、レポートページに入ります。

IP アドレス、デバイスタイプ、デバイスモデル、シリアル番号、MAC アドレス、HTTP ポート、ユーザー名などのデバイス情報を表示できます。

「レポートをエクスポート」 をクリックして、デバイスリストをエクスポートします。

第10章 ヘルプセンター

言語の切り替え、アップグレードパッケージのインストール先の設定、ユーザーマニュアルの閲覧、自動検出の有効化などが行えます。

ソフトウェアの右上隅にある [] をクリックして、ヘルプセンターにアクセスします。

システム構成

「  」をクリックし、「Select Target Folder」を選択して、ダウンロードしたソフトウェアアップグレードパッケージを保存します。

ユーザーマニュアル

ユーザーマニュアルを表示します。

バージョン情報

[更新を確認] をクリックして、最新のソフトウェアバージョンを検出します。**[自動チェック]** を有効にすると、ソフトウェアの更新が自動的に検出されます。

オープンソースソフトウェアのライセンス

「**オープンソースソフトウェアライセンス**」をクリックして、ライセンスを表示します。

ソフトウェア使用許諾契約書

「**ソフトウェア使用許諾契約書**」をクリックして、利用規約をご確認ください。



遠くを見据え、さらに先へ